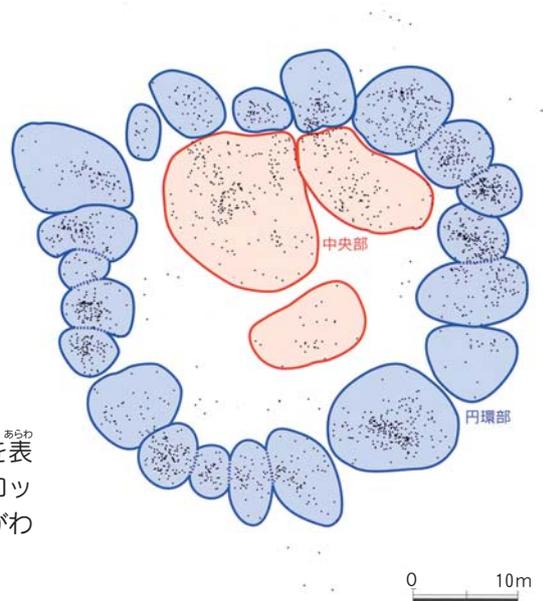


IV-8

おお
大きなムラはなかったのだろうか？

狩りで生計を立てていたと考えられる岩宿（旧石器）時代では、数家族が獲物を求めて移動生活を繰り返していたと考えられています。しかし、最近では約3万年前には、多くの人が同時に共同生活をしていたムラがあったことがわかってきました。群馬県下舐牛伏遺跡では、直径50mにも及ぶ円形のムラの跡が発見されていますが、中央には広場があり、それを囲むように21家族がイエを立てていたと考えられています。一家族5人とすれば100人以上の人が一緒に住んでいたと予想されますが、そこでくらす人々は、どのようにして生活していたのでしょうか。ナウマンゾウなどの大型動物を狩りしていたと考えれば、狩りに多くの人手があると同時に、その肉は多人数のおなかを一度に満たすことができたことでしょう。



●群馬県下舐牛伏遺跡の環状ブロック群

黒い小さな点は、石器の発見された場所を表している。よく見ると、広場を囲んで21のブロックが直径50mの円形に発見されていることがわかる。



●復原された下舐牛伏ムラ

21軒のイエが円形に建ち並び、広場の北側に共同で火をたいたと考えられる場所がある。